

はじめに

- 散水制御盤、現地操作盤を正しく施工していただくために、設置工事を実施する前に、この施工説明書をよくお読みください。
- 施工後は、この施工説明書を大切に保管してください。
- スイッチによる各種設定は、工場出荷時に設定済みのため、現場で設定する必要はありません。(放水開始タイマの設定および時刻設定は除く)
- 現場で変更する場合には、内容を十分にご理解の上、行ってください。
- この施工説明書は、標準品について記述しています。特殊仕様の散水制御盤、現地操作盤につきましては別途、外観図・回路図・仕様書などがありますので、十分にご理解の上、施工を行ってください。

散水制御盤・現地操作盤の設置場所

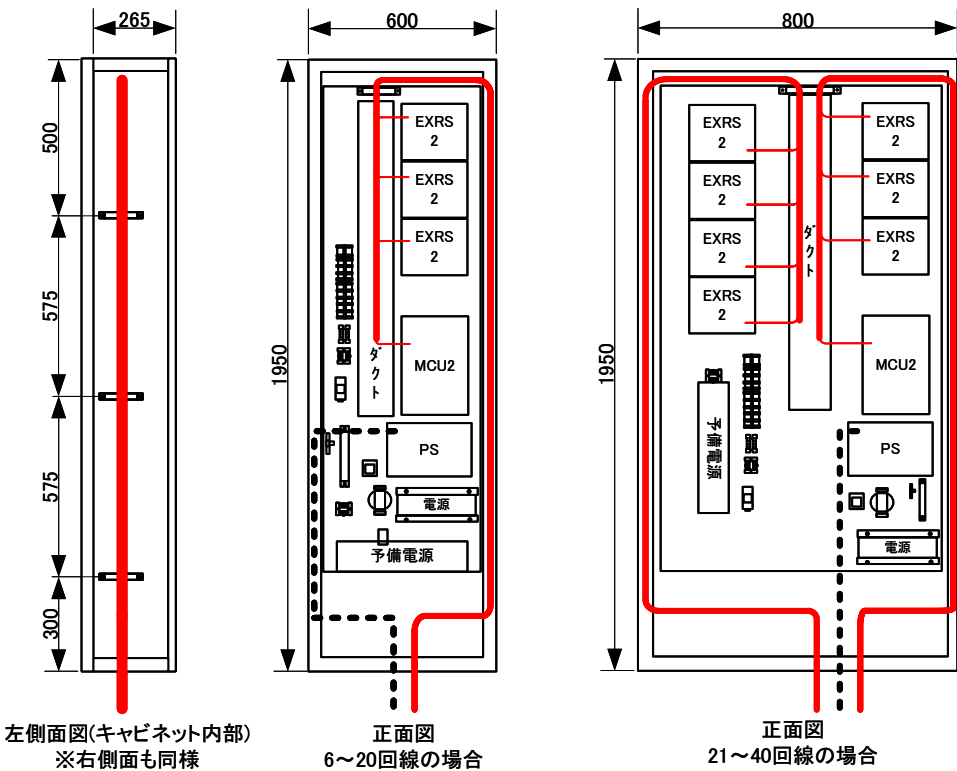
- 故障や誤動作を防ぐため、以下の場所に設置してください。
- 直射日光の当たらないところ、暖房やボイラーなどから熱風が直接当たらないところ。
  - 水滴、蒸気、ほこり、腐食性ガスなどがかからないところ。
  - 振動の少ないところ。
  - 周囲に操作上支障となる障害物のないところ。
  - 周囲の温度が0～40℃のところ。
  - 水平に取り付けられるところ。

散水制御盤キャビネット時の配線方法

- 散水制御盤の外線は以下の方法にて配線してください。
- 外線を盤下方部から配線する場合、外線をキャビネット側面にある束線台の内側を通してダクト上部からダクト内部に入れ、基板に配線してください。
- また、AC線と通信線は同束、交差しないようにしてください。

※図は盤下方部から外線を配線する例を示しています。

--- AC線の引き直し  
--- 通信線の引き直し



左側面図(キャビネット内部)  
※右側面も同様

正面図  
6～20回線の場合

正面図  
21～40回線の場合

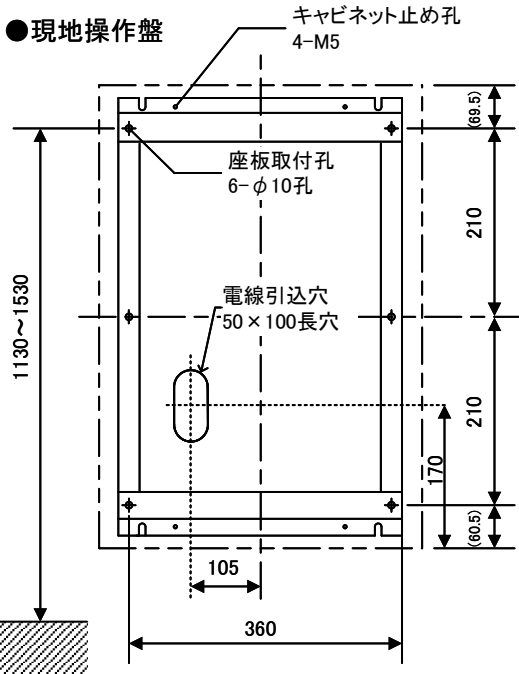
現地操作盤キャビネットの取り付け方法(壁掛型の場合)

- 注意**
- 現地操作盤はその重量に十分に耐えるように、また、転倒しないように強固に取り付けてください。  
強固に取り付けなかった場合、脱落、転倒を引き起こし、けがの原因になります。

- 注意**
- キャビネットに直接穴をあける場合は、切りくずが回路部に入り込まないよう、十分注意してください。  
ショートや故障の原因となります。

- ①付属の座板をアンカーボルト(M8)または同等品で壁面に取り付けてください。  
壁面の強度が弱い場合には、補強材で補強した上で取り付けてください。(6カ所)  
床面からの取り付け高さは、下図に示す範囲内にしてください。
- ②座板にキャビネットを引っかけて、付属のビスで座板とキャビネットを固定してください。(4カ所)

※埋め込み型・自立型については別途お問い合わせください。



時刻設定の方法

- 散水制御盤の電源をOFFにしてから、MCU2基板上にあるディップスイッチ(DSW3の1bit)をONにした状態で散水制御盤を起動すると時刻設定モードとなり、年月日および時刻を設定することができます。※スイッチの場所はスイッチによる各種設定(散水制御盤)参照。
- ①放水開始タイマ上に各項目が表示され、移報遮断スイッチ、弁制御遮断スイッチで項目が選択でき、予備電源試験スイッチ、ランプ試験スイッチで数値を変更できます。
  - ②時刻設定終了後、復旧スイッチを押して時刻を決定してください。設定された時刻によって、下の表示がされます。
  - ③放水停止スイッチを押すと、設定されている時刻が3秒おきに「年」→「月」→「日」→「時」→「分」→「消灯」と表示されます。
  - ④変更後は散水制御盤の電源をOFFにしてから、時刻設定モードをOFFにして、再び電源をONにしてください。

表示	内容	表示	内容
y	現在の年を設定します。	888	正常に設定されました。電源を遮断し、時刻設定モードをOFFにしてから電源を投入してください。
A	現在の月を設定します。		
d	現在の日を設定します。		
H	現在の時刻(時)を設定します。	Err	設定された時刻に誤りがあります。再設定を行ってください。
F	現在の時刻(分)を設定します。		

<2023年1月29日15時12分と正常に設定できた場合>

423 → 801 → 129 → 15 → 12 → 888

スイッチによる各種設定(散水制御盤)



使用回線数、現地操作盤接続台数およびアドレスの設定を誤ると通信異常となり、散水制御盤、現地操作盤が正常に動作しません。



出荷時の設定を変更する際は、仕様を十分に理解した上で設定を行ってください。  
誤った設定を行うと緊急時に散水制御盤、現地操作盤が正しく動作しません。

- MCU2基板の時刻設定以外のスイッチの設定は、工場出荷時に物件の仕様に合わせて設定済みのため、現場で設定する必要はありません。
- 放水開始タイマ設定(RSW5,6,7)は、工場出荷時に3分に設定していますが、設定時間は所轄の消防機関と協議の上、設定してください。

区画包括設定(DSW2)

ひとつの火災受信機からの感知器入力複数の区画にまたがっている場合に該当する番号のスイッチをONにします。

ONスイッチ	内容
1	1,2区画にひとつの自火報感知器
2	2,3区画にひとつの自火報感知器
3	3,4区画にひとつの自火報感知器
4	4,5区画にひとつの自火報感知器
1,2	1,2,3区画にひとつの自火報感知器
1,2,3	1,2,3,4区画にひとつの自火報感知器
1,2,3,4	1,2,3,4,5区画にひとつの自火報感知器
2,3	2,3,4区画にひとつの自火報感知器
2,3,4	2,3,4,5区画にひとつの自火報感知器
3,4	3,4,5区画にひとつの自火報感知器

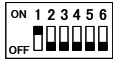


蓄積解除設定(DSW1)

消火専用感知器の蓄積機能を解除する場合に6をONにします。

番号	ON	OFF
1	6のON状態でスイッチ注意灯点滅する・点検中移報出力する	6のON状態でスイッチ注意灯点滅しない・点検中移報出力しない
2	未使用	未使用
3	未使用	未使用
4	未使用	未使用
5	未使用	未使用
6	全回線蓄積解除	通常監視

通常監視＝蓄積あり  
6のON状態でスイッチ注意灯点滅・点検中移報出力する状態の例



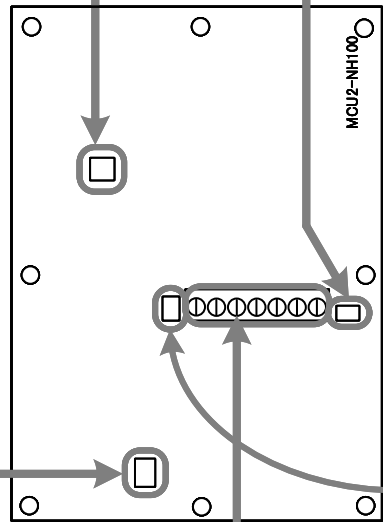
空き回線設定(DSW4)

消火専用感知器と遠隔操作弁の断線監視を無効にする場合にその回線に該当する番号のスイッチをONにします。

番号	ON	OFF
1	1回線空き回線処理	通常監視
2	2回線空き回線処理	通常監視
3	3回線空き回線処理	通常監視
4	4回線空き回線処理	通常監視
5	5回線空き回線処理	通常監視
6	1～5回線の消火専用感知器のみ空き回線処理	通常監視

通常監視＝断線監視有効

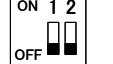
接続されている回線の断線監視をすべて有効にした状態の例



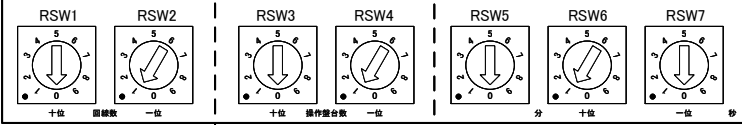
時刻設定モード(DSW3)

時刻設定を行う場合に1をONにします。

番号	ON	OFF
1	時刻設定	通常監視
2	未使用	未使用



工場出荷時の状態



- 回線数設定 (RSW1,2)  
使用回線数を設定します。(最大40)
- 現地操作盤台数設定 (RSW3,4)  
現地操作盤接続台数を設定します。(最大15)
- 放水開始タイマ設定 (RSW5,6,7)  
放水開始タイマの値を設定します。(1秒～9分59秒)



接続条件

- 【※1】消火ポンプ起動指令は有電圧です。  
（オプションリレーが組み込まれた製品の場合は無電圧となります。）  
XC（＋）、X1（－） DC24V 100mA
- 【※2】オプションリレーが組み込まれていない製品で、ポンプ起動指令を無電圧にする場合、消火ポンプ制御盤にて外付けリレーを設けてください。  
コイル電圧 DC24V
- 【※3】移報端子の定格接点容量 DC24V 1A以下  
1つの移報端子に2つ以上の機器は接続できません。
- 【※4】遠隔操作弁 DC24V 140mA ※同時動作台数は1台です。
- 【※5】現地操作盤は最大15台まで接続可能です。
- 【※6】消火専用感知器  
L（＋）、LC（－） DC24V 50mA  
消火専用感知器は1回線あたり最大20個（煙感知器の場合30個）まで接続可能です。

電源投入時の注意事項

予備電源が接続されていることを確認してからAC電源を入れてください。  
予備電源は以下の手順で接続してください。  
①ヒューズ(F3)を取り外す。  
②予備電源を散水制御盤内の予備電源端子に接続する。  
③主電源(電源スイッチ)をONにする。  
④ヒューズ(F3)を取りつける。  
電源を立ち上げると、「移報遮断スイッチ」灯、「制御弁遮断スイッチ」灯が点灯し、「スイッチ注意」灯が点滅します。  
このままでは、火災発生時や停電時に散水制御盤・現地操作盤が正常な動作を行うことができません。正常な監視状態に戻すには、各スイッチの遮断状態を解除してください。

警告



濡れた手で散水制御盤・現地操作盤の内部に触れないでください。  
感電のおそれがあります。

絶縁抵抗・絶縁耐力試験試験を行うときの取り扱い

注意



絶縁抵抗試験・絶縁耐力試験を行うときには、PS基板のアース端子「E」とキャビネットの接続を取り外してください。  
取り外さない場合、散水制御盤・現地操作盤を破壊するおそれがあります。

- ① 工場から出荷された直後はPS基板のアース端子「E」とキャビネットが接続されています。  
② 絶縁抵抗・絶縁耐力試験を行う前にこの接続を取り外し、低圧テストで絶縁抵抗が劣化していないことを確認してから試験を行ってください。  
③ 絶縁抵抗・絶縁耐力試験が終了したときはこの接続を元に戻してください。

保守音響停止の方法

火災音響・異常音響は後続再鳴動方式ですので、散水制御盤の状態に変化があると音響は再鳴動します。  
保守点検時に連続停止をする場合は下記の操作を行ってください。

■保守音響停止の設定

- ①「音響停止」スイッチを3秒以上押し続けてください。  
②「音響停止スイッチ」灯(赤)が点灯し、音響が鳴動停止に設定されます。

■保守音響停止の解除

「音響停止」スイッチを押して下さい。保守音響停止状態が解除されます。

警告



予備電源は、端子接続になっています。端子接続の場合、＋、－を絶対に間違わないようにしてください。予備電源を発熱・破裂させる原因となります。

注意



各端子への外線接続は、所定の定格容量・極性に従って正しく行ってください。誤った場合、故障や発火の原因となります。

注意



ヒューズは、必ず決められた容量のものを使用してください。  
それ以外のものを使用した場合、故障や発火の原因となります。

警告



アースを確実に接続してください。接続しないと、漏電時に感電するおそれがあります。

注意



電源はAC100V専用です。接続前に入力電圧を確認してください。  
AC100V以外の電源は絶対に接続しないでください。  
故障の原因となります。

注意



電源（AC100V）接続時は、感電防止のため、ブレーカを遮断してから作業を行ってください。電源端子に設けてあるカバーは接続完了後、元どおりに取り付けてください。

注意



予備電源を取り付けるとき、電極をショートさせないように注意してください。火傷のおそれがあります。